広報 はちまんたい
Jul. 2023 No.337

キラリ輝人（ひかりびと）120

アイデアとビジョンと体力で農業に挑戦し続ける

ミニトマト栽培に意欲的に取り組む 古川佑史さん

ふるかわ・ゆうじ　40歳　＝松尾＝

昭和57年生まれ。音楽や祭りで盛り上がるのが好き。コロナ前は、親や地域の人から手ほどきを受けた盆踊りを子どもたちに指導。今は親子で盛岡さんさ踊りに出るのが楽しみ。好きな言葉はフランスのSF作家の言葉「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」。

「段取りや時期の見極めなど、自分の考えが、そのまま作業や品質、収量に影響するので、自分のやり方で成果が出たときはとても達成感があります」と判断の大事さをかみしめるのは、高い意欲でミニトマト栽培に取り組む古川佑史さん。3年前から県農業研究センターの実証実験のほ場として、自らのハウスに光合成を促し、収穫量の増加につなげる装置などを設置し栽培を行っている。

農家の次男として生まれ、小さいころから、周りには自分が農業を継ぐと話していた。「農作業が好きだったというのもありますが、自分で栽培し販売して小遣い稼ぎをしていたのも大きかったかも」と屈託なく笑う。

小学校の頃、初めて自分で栽培したのがミニトマト。農業短大の卒業論文のテーマには中玉（ちゅうだま）トマトを選んだ。本格的に家業に従事するようになってからも試行錯誤を続け「20品種くらい栽培した年もありますが、病気に対する抵抗性も、成長速度もまちまちで管理しきれなかったこともあります」と振り返る古川さん。取り組みの積み重ねで市内の代表的なミニトマト農家となったが、毎年の天気の変動の大きさには頭を悩ませる。

新しい装置を設置したハウスは「収量は2割近く増えた」という。葉の病気の減少もみられ、手ごたえを感じている。

もうすぐ迎える収穫の最盛期には、例年1日16時間以上作業をする古川さん。将来の目標は「通年栽培」ときっぱり。今は水稲や野菜のほか、もち麦（※）の栽培にも取り組んでいる。

農業への向上心が尽きない。

気温状況などを確認しスマホから装置の運転指示を出す古川さん

※お米と同じように、大麦にも「もち性」と「うるち性」があり、もち麦（もち性大麦）は食物繊維が豊富な穀物であることが知られ、注目されている（農林水産省HP）

■編集後記

▽3週続いた運動会の取材（6月号）でお腹いっぱいになった後は、中総体（本号）、消防訓練・演習（8月号用）と、行事はほぼコロナ前の通常開催に。この後は、お祭りシーズンがやってきます。（智）

▽あゝ懐かしき中総体。青春です。頑張っている中学生たちがレンズ越しにキラキラ輝いて見えました。その瞬間を少しでも皆さんにお届けできていれば幸いです。（千）

▽アユの放流会では、チラ見しながら順番を待つ子、飛び跳ねるアユにびっくりする子、いつまでもアユの行方を眺めている子、かわいい表情に目じりの皺が増えました。（福）

【広　告】

不眠症、自律神経症、不安神経症、眼・視力の悩み
薬のプロフェッショナルが
あなたのご相談を承ります
漢方の あさひ薬局
西根中学校前店（旧 西根病院前）
八幡平市大更24-1-118（西根中学校前）TEL.0195-70-2311

※広報はちまんたい7月13日号（№337）の印刷経費は1部90.44円、発行部数は9,758部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、㈱総合広告社（☎019-626-3370）まで。

ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C103798

令和5年7月13日発行
〒028-7397岩手県八幡平市野駄第21地割170番地
■ホームページ https://www.city.hachimantai.lg.jp
■発行　岩手県八幡平市　☎0195-74-2111　FAX0195-74-2102
■編集　企画財政課
■印刷　川嶋印刷株式会社
広報誌はこちら